

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5167
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	県有林整備事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	森林資源の育成と、公益的機能の高度発揮を両立した森林の管理・経営を実践することにより持続的な森林経営の普及、啓発を図る。	
事業概要	県有林管理・経営計画に基づき、森林施業の実施、林産物の生産、林内路網など県有林施設の維持管理を行うと共に、模範的な森林管理・経営を実践する県有林を利用する研修等を通じて、林業関係者への普及、啓発を図る。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県有林での林業普及研修等受講者数	目標値		65.0	65.0	65.0	65.0	人
		取組目標値						
	式・定義 研修等受講者数	実績値	39.0	46.0				
		達成率	-	70.8	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,884	11,735
うち一般財源 (千円)	2,119	6,918

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成28年度の木材生産量は857m<sup>3</sup>となり、計画655m<sup>3</sup>を大きく上回った。
- 県有林を利用した研修は3回実施され、受講者数は46名だった。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 県の木材生産量増大に向けて寄与するとともに、木材販売収入と林産物販売収入合わせて約867万円の売り上げとなった。
- フォレストワーカー研修など、県内の林業事業体の受講生の技術向上に寄与した。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

県有林においては、一般県民に対する初歩的な林業体験から林業事業者等を対象とした技術的研修まで幅広く受け入れているが、受講者数が伸び悩んでおり、適切な森林管理のノウハウが民間事業体に想定より浸透しておらず森林経営の成長に支障が出ている。

### ②困っている状況が発生している「原因」

県有林を研修等のフィールドで使ってもらうための企画・情報提供等が不足している。

### ③原因を解消するための「課題」

- 研修等主催機関に研修等のフィールドとしての活用を検討してもらう必要がある。
- 新たな研修、見学会等を創設する必要がある。
- 持続的な森林経営の普及、啓発を図っていく上で県有林を利用する研修等を増やしていく必要がある。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 研修等主催機関へ模範的な森林を有する県有林の情報を提供し、研修等のフィールドとしての活用してもらう。
- 新たな技術および知見のための実証試験地として、研究機関へフィールド提供する。
- 民有林の模範となるよう引き続き県有林の適切な管理、経営を実践する。